

こすげじんじゃおくしゃほんでん  
小菅神社奥社本殿 (附 宮殿 2 基)



△小菅神社奥社本殿



△宮殿 2 基

小菅山（1.017m）山腹、標高約 840mの岩陰に建てられた社で、その草創は、天武天皇の白鳳 8 年（680）修験者の開祖、役小角えんのおずぬが岩窟内に八諸権現の宮殿を建てたのが始まりだと伝えられている。

現在の建物は、天文年中に造立されたもので、内陣にある宮殿 2 基（中央の 1 基は慶応 3 年）は永正 5 年（1506）の造立である。また、内陣東側には甘露池と称する小さな池がある。これもほかの宮殿とともに神格化されている。